

NO. 5 事業名 経営体育成基盤整備事業（国補）
箇所・地区名 おお ぶじ
大 藤

1. 事業評価説明シート

事業名	経営体育成基盤整備事業(国補)	事業箇所	甲州市塩山中萩原	地区名	おおろじ大藤	事業主体	山梨県
-----	-----------------	------	----------	-----	--------	------	-----

(1) 事業概要

①課題・背景

本地区は、旧塩山市の南部に位置し、果樹を中心とした農業が行われている。

しかしながら、急峻な地形上に不整形で狭小なほ場となっており、作業効率も悪い状況であることから、近年では後継者不足が深刻化し、遊休農地が増加するなど、多くの課題を抱えている。

一方、近隣のほ場では、区画整理などの生産基盤の整備を契機に集落営農組織が設立され、共同作業による果樹園の再生がなされている。

このため、その取組を拡大するため、本地区においても、区画整理等の基盤整備の実施及び集落営農の導入により農作業効率の向上や耕作放棄地解消、担い手対策を図っていくものである。

②整備目標・効果

- 主要目標 ○農業生産力の向上
 ・農業所得増加額 5,137千円/ha \geq 2,426千円/ha※
- 副次目標 ○農業用排水能力の向上
 ・(計画排水能力 0.07m³/s)÷(現況排水能力0.04m³/s)
 =1.75 \geq 1.00※
- ・施設の老朽度
 既存施設の耐用年数(15年)－使用年数(30年)
 =-15年 \leq 0年※
- (※評価基準値)
- 副次効果 ○遊休農地の解消
 ○果樹園景観の保全
 ○重要プロジェクトとしての位置づけ(新やまなし農業大綱)

(2) 整備内容と整備量

- ①整備内容 区画整理 1箇所 A=3.0ha
- ②整備期間 平成29年度～平成32年度
- ③総事業費 約2.0億円
 (国費1.1億円(5.5/10),県費0.55億円(2.75/10),市費等0.35億円(1.75/10))
- ④全体計画 (年度別整備内容) (事業費)
- | | | |
|--------|-------|--------|
| 平成29年度 | 測量・設計 | 20百万円 |
| 平成30年度 | 区画整理 | 150百万円 |
| 平成31年度 | 区画整理 | 20百万円 |
| 平成32年度 | 区画整理 | 10百万円 |
- ⑤既整備内容・期間・事業費
 ・該当なし

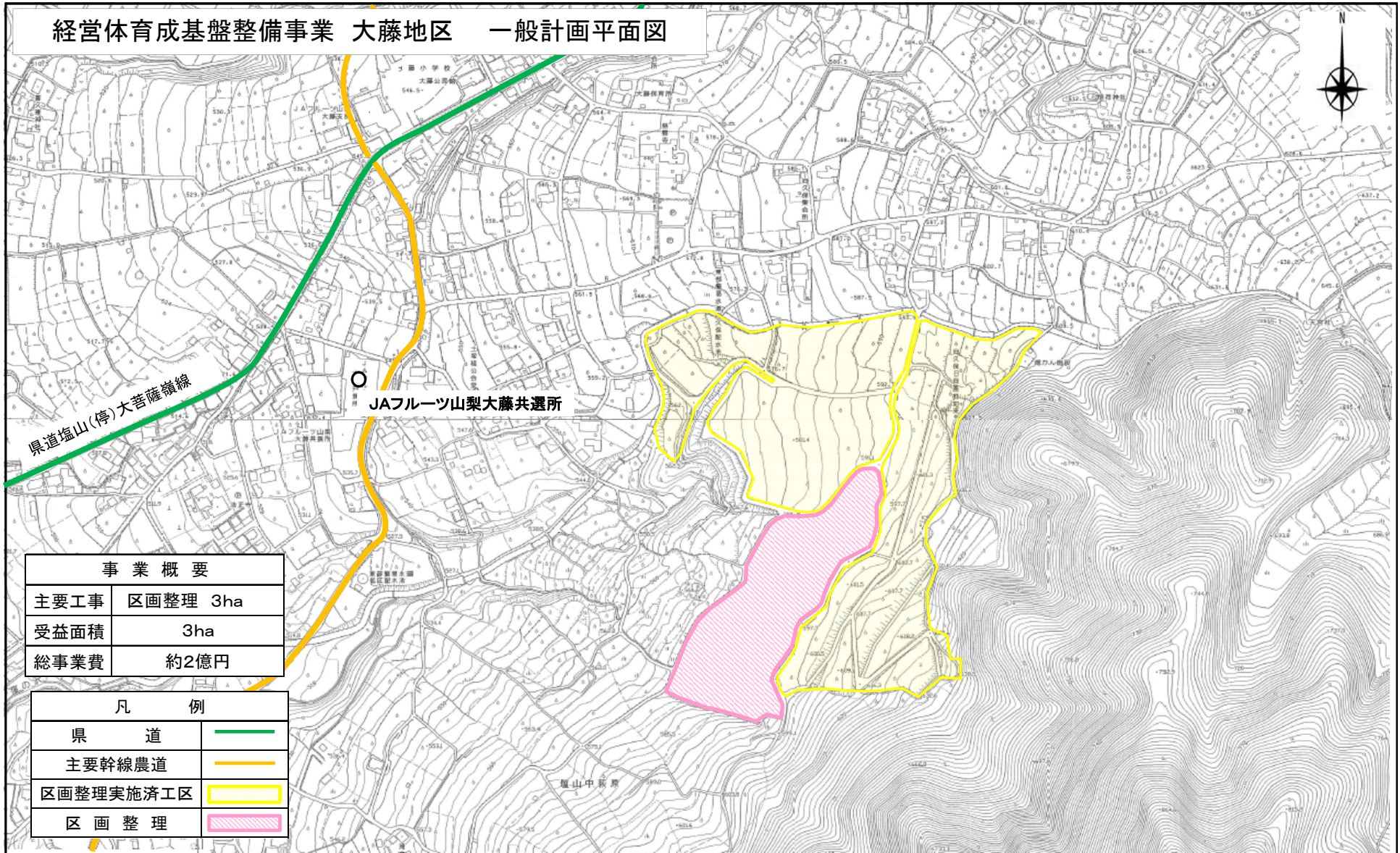
(3) 事業の妥当性評価

妥当・妥当でない

- ①公共関与の妥当性(行政が行うべき事業か)
- ・本地区の整備は食料・農業・農村基本法に位置づけられている、農業の持続的発展、食料の安定供給、多面的機能の発揮に資するものであり、行政が行うべきである。
- ②事業執行主体の妥当性(県が行うべきか)
- ・農地耕作条件改善事業実施要綱第4により県が事業主体となって行うべきである。
- ③経済妥当性
- 費用便益費 便益(B)/費用(C) = 1.2 > 1.0
 ・便益(B)=242.8百万円、・費用(C)=199.9百万円
- ④事業実施・規模の妥当性
- ・営農条件を改善する上で必要な整備量としている。
- ⑤整備手法の有効性
- ・受益面積規模、事業対象工種から、農地耕作条件改善事業要綱・要領に基づき対応することが妥当である。
- ⑥環境負荷への配慮
- ・工事の際は、環境等への影響を最小限にするよう措置を講じる。
- ⑦事業計画の熟度
- ・早期着工の要望あり
- 総合評価 [貢献度ランク:a]

【事業位置図等】

2. 添付資料シート



2. 添付資料シート (2)



急峻な地形で不整形かつ狭小なほ場となっていることから年々遊休農地が増加している。



農薬散布状況



堆肥施用状況

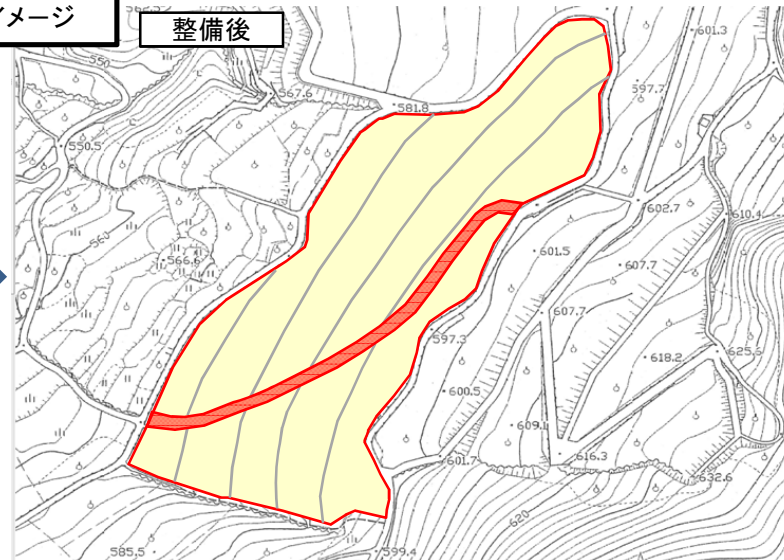
整備済ほ場では、機械化による農薬散布や堆肥施用などの共同作業に取り組むことで、農家の営農労力の軽減が図られている。

整備前



区画整理のイメージ

整備後



集落営農の導入により営農労力の軽減